

第 732 回 新潟医学会次第

第 732 回新潟医学会を下記の要領によって開催致しますので何卒多数ご来聴下さいますようお願い申し上げます。

日時 平成 30 年 7 月 21 日 (土) 午後 2 時から
会場 新潟大学医学部 有壬記念館

新潟医学会集会幹事

記

I. 特別講演 (午後 2 時～2 時 30 分)

座長 寺井 崇二 先生 (消化器内科学 教授)

「除菌後胃癌は中間帯から発生している –その機序の解明への道–」

八木 一芳 先生
(魚沼地域医療教育センター 特任教授)

演者は胃拡大内視鏡像と組織像との対比検討を 20 年続けてきた。その中で様々な新しい所見を発見し報告してきた。近年、ピロリ菌除菌した後に発見される除菌後胃癌が注目されているが演者は胃底腺、幽門腺化生、腸上皮化生といった様々な腺が混在している中間帯にこの胃癌が好発していることに気付いた。胃は主細胞が偽幽門腺化生へ移行し、そこから腸上皮化生が発生するという動物実験により証明された学説があるがまったく同様の变化を認め、さらにこの化生の過程で癌が発生すると思われるような所見が観察できた。それらを紹介したい。

II. 特別講演 (午後 2 時 30 分～3 時)

座長 阿部理一郎 先生 (皮膚科学 教授)

「表皮水疱症の新規治療法の開発」

新熊 悟 先生 (皮膚科学 准教授)

表皮水疱症は先天的に皮膚が脆弱で、軽微な外力により容易に水疱やびらんを生じる疾患である。表皮-真皮接着部の構成タンパクをコードする遺伝子の変異によって生じることが知られている。我々は表皮水疱症に対し、CRISPR/Cas9 システムを用いた遺伝子治療および患者由来の iPS 細胞や表皮角化細胞を用いた再生医療の開発を行っている。今回、我々の研究成果も含め、表皮水疱症の最新治療戦略について講演する。

III. シンポジウム (午後 3 時～5 時)

司会 阿部理一郎 先生 (皮膚科学 教授)

「皮膚科疾患の診断治療のトピックス」

(シンポジスト)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 膠原病の皮膚病変における最近の治療 | 濱 菜摘 先生 (皮膚科学 助教) |
| 2. 皮膚悪性腫瘍の治療 | 藤川 大基 先生 (皮膚科学 講師) |
| 3. 当科における乾癬治療戦略 | 藤本 篤 先生 (皮膚科学 講師) |
| 4. 皮膚のモザイク病変の捉え方 | 新熊 悟 先生 (皮膚科学 准教授) |
| 5. 蕁麻疹における最近の話題 | 阿部理一郎 先生 (皮膚科学 教授) |

新潟県医師会生涯教育講座の認定を申請しております。

大 学 院 特 別 講 義

大学院生、学部学生の皆様、看護師、医療関係者の方々の出席を歓迎致します。参加料は無料、事前申込の必要はございません。自由に御参加下さい。
当日は医学部職員駐車場のゲートが開いておりますので、ご利用下さい。